

都市住民を対象とした森林 インストラクション活動に ついて (95)

指導普及課 高橋 東

はじめに

指導普及課では、森林レクリエーション事業におけるソフト面の充実のため、森林インストラクション活動に取り組んでいます。「森林倶楽部」(森林ふれあい推進事業)はその代表的なイベントであり、今年度の加入者は252名となっています。加入者の状況は、50才以上が約7割、以前から加入している常連会員も約7割を占めており、森林・林業の理解者であるとともに国有林の応援団でもあることから、今後とも継続的にサービスを提供していく必要があると考えております。

しかし、現在のように森林に対する国民の要請が多様化する中では、多種多様な方々に森林・林業についての正しい知識を理解していただく必要があることから、秋田市民を対象にアンケート調査を実施し、その結果を今後の森林インストラクション活動に活かすため考察したので発表します。

1 調査方法等

アンケート調査は1月9日、10日の2日間秋田総合生活文化会館アトリオンで実施しました。当日は、アトリオンの出入口付近で同僚2名と共に、アンケートへの協力を呼びかけました。また、同時に「森林倶楽部」と「分収育林」のPR活動にも取り組みました。

その結果、各世代から合計668枚のアンケートを集めることが出来ました。

アンケート調査の項目は大きく分けて3つあります。1つは森林についてどの程度知っているか、2つ目は森林に何を期待しているか、3つ目は森林におけるイベントについてです。

2 調査結果の分析

その結果、多くのことが分かりましたが、主なものについて発表します。

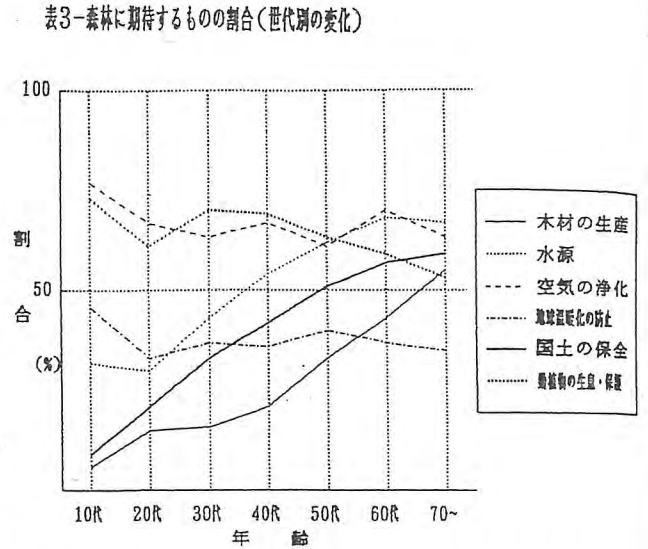
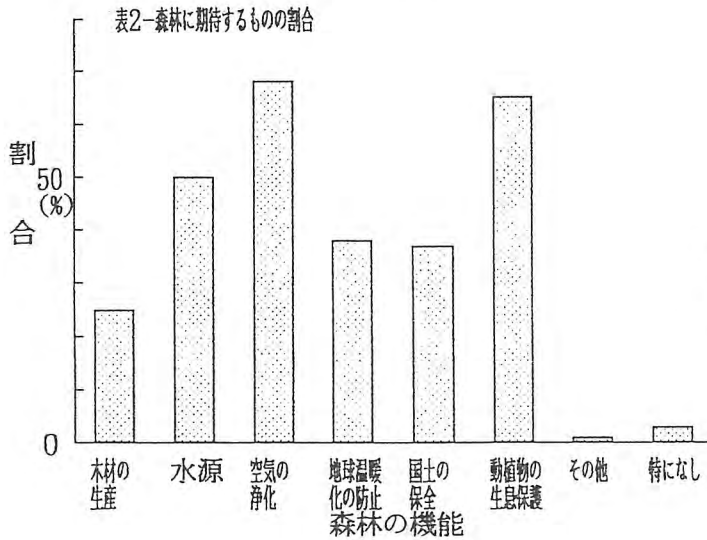
まず、森林についてどの程度知っているかについては「人工林と天然林の違いを知っているか」と聞いたところ「知っている」と答えた人は全体の63%でした。ある程度単語そのものから意味を推測できることや林業の先進県である秋田市での調査ということもあり、もっと多くの方が違いを「知っている」と思っていたのですが意外に低い数字となりました。そこで、これには世代により差があるのではないかと考え、世代別に「人工林と天然林の違い」を知っている者の割合を整理してみました。

世代別に見ると「知っている」と答えた人の割合は、10代では47%、20代では44%、30代では56%、40代では69%、50代では72%、60代では82%、70才以上では80%となっており、ほぼ年齢が高くなるにつれてその割合は高くなっていま

表1-「人工林と天然林の違い」を知っている者の割合(%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70~
世代別	47	44	56	69	72	82	80
40代以上	48			75			
全体	63						

す。さらに、これを40才を境として整理してみると、40才未満では48%と2人に1人しか違いを理解していないのに対し、40才以上では75%と4人のうち3人が違いを理解していることが分かります。(表1参照)これは40才未満の若い世代に森林・林業の知識の普及を図る場合、「人工林」「天然林」等の基礎的な用語から説明が必要なことを示していると考えられます。



次に森林に何を期待しているのかについては、「木材の生産」と答えた人は全体の25%、「水源」は50%、「空気の浄化」が68%、「地球温暖化の防止」が38%、「国土の保全」が37%、「動植物の生息・保護」が65%、「その他」が1%、「特に期待するものがない」が3%となっており(複数回答可として調査)、ほとんどの人が森林の諸機能の発揮を期待しており、半分以上の人が「水源」「空気の浄化」「動植物の生息・保護」を森林に求めていることが分かります。(表2参照)また、世代別に森林に期待するものの回答割合に注目してみると、①「木材の生産」「水源」「国土の保全」は世代が進むにつれて期待度が大きくなっていること ②「空気の浄化」や「地球温暖化の防止」は世代間の差がないこと ③「動植物の生息・保護」は若い世代ほど期待度が高いことが分かります。(表3参照)つまり若い世代は、「空気の浄化」「動植物の生息・保護」というような特定の機能のみを期待しており、世代が進むにつれてその偏りは小さくなり「木材の生産」を含めた森林の諸機能すべてについて期待していることを示しています。これは、若い世代は森林に親しむ機会に乏しく、学校教育やマスコミ等により間接的に森林のイメージをとらえていることに起因していると考えられます。

次に森林におけるイベントについては、まず8つのメニューの中から参加したいものすべてを選んでもらいました。その結果、全体では参加希望の割合が高いのは「自然観察会」の52%、「林間キャンプ」の31%、「登山」の27%で他のイベントについては20%以下となっております。(表4参照)また、「参加を希望しない」という回答割合は5%と低く、イベントについてはほとんどの人が興味を示していることが分かります。また、男女で差があるのかと思い分析してみました。参加希望の高い上位3つはどちらも「自然観察会」「登山」「林間キャンプ」となりました。やはり、割合的にも「自然観察会」が抜き出ており、続いて男性は「登山」「林間キャンプ」、女性は「林間キャンプ」「登山」の順番でした。この順番の違いは体力的なものに起因していると思われそうですが、概ね

表4-森林のイベントへの参加希望割合

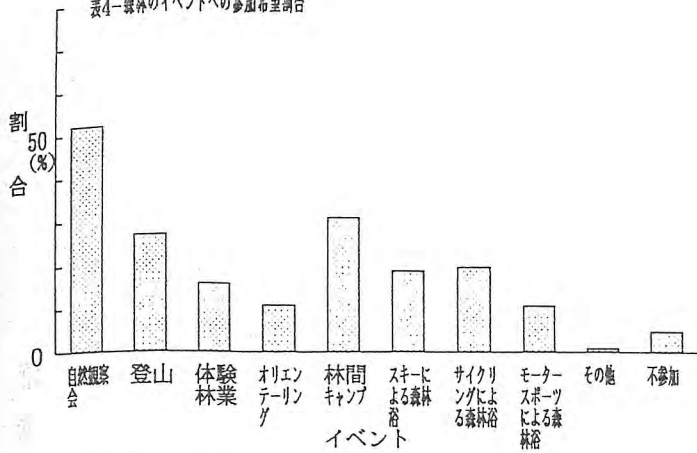
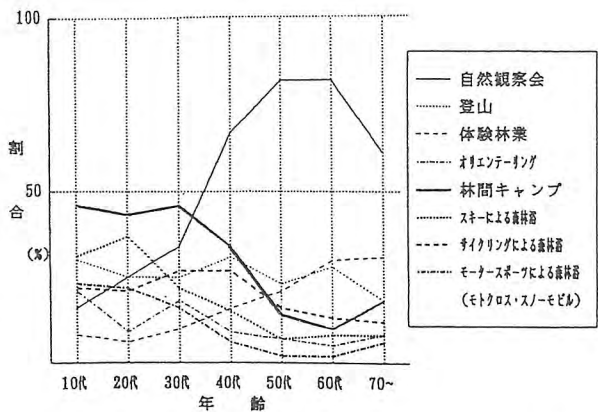
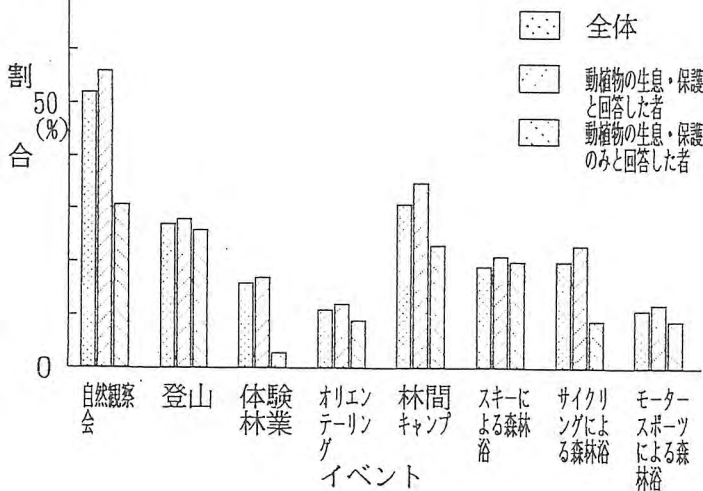


表5-森林のイベントへの参加希望割合(世代別の変化)



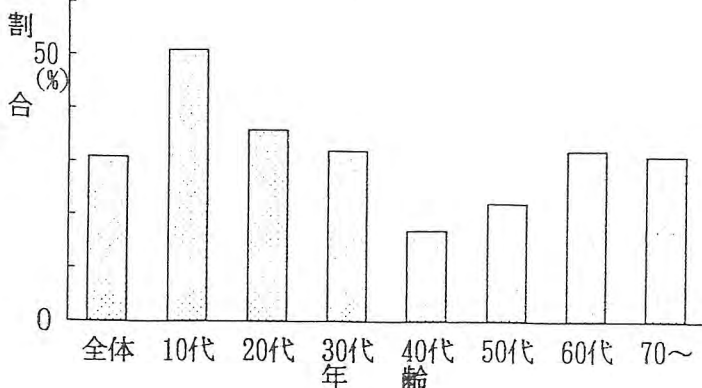
イベントに対する参加希望については男女に差がないと考えられます。また世代別に参加希望の割合の変化に注目してみると、①参加希望割合は40才未満は「林間キャンプ」、40才以上は「自然観察会」が抜け出ていること ②「登山」は世代にかかわらずほぼ20~30%の参加希望があること ③「体験林業」は60才以上の参加希望が多く、若い世代はほとんど興味を示していないこと ④「オリエンテーリング」「サイクリングによる森林浴」「スキーによる森林浴」「モータースポーツによる森林浴」は若い世代の参加希望があるもののその割合はそれほど高くないことなどが分かります。(表5参照)

表6-森林に「動植物の生息・保護を期待する者」のイベント参加希望割合



ここで先に「森林に期待するもの」の中で「森林に動植物の生息・保護」と回答した者を抜き出し、そのイベント希望に注目してみました。抜き出した者全員の参加希望の割合については全体の傾向とほぼ一致していることが分かります。しかし、森林に期待するのは「動植物の生息・保護」のみと答えた者の傾向を分析してみると全体的にイベントへの参加希望は少なく、特に「体験林業」については参加を希望する者が皆無に近いことが分かります。

表7-イベントについての希望の割合(他の参加者)



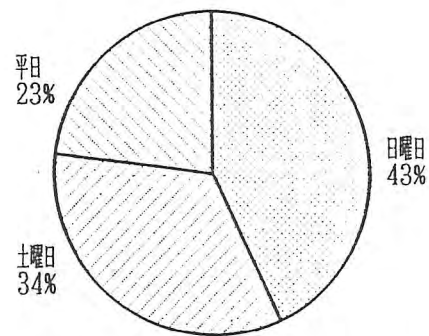
(表6参照)これは、森林に「動植物の生息・保護」のみを期待している者が「林業」と「動植物の保護」を二元論的にとらえていることを示していると考えられます。

次にイベントに参加する場合の他の参加者について聞いてみたところ「同世代がよい」と答えた者は全体の31%であり、興味があれば他の参加者にこだわらないことが分かります。(表

7参照)しかし、年代別では10代の半数が「同世代がよい」と回答しており、特に若い世代は同世代を好む傾向が強いことが分かります。

最後にイベントの開催希望日について聞いてみたところ、全体では「平日」が23%、「土曜日」が34%、「日曜日」が43%となり、週休2日制の定着が進んでいることが分かります。(表8参照)また、森林倶楽部の会員を対象に実施した別の調査でも「日曜日」が37%、「土曜日」が39%という結果が出ており、「土曜日」のイベントの開催も検討していく必要があると考えられます。

表8-イベントについての希望の割合(開催日)



3 考察

(1) 森林インストラクション活動における世代別の基本的な指標

森林・林業についての知識、森林への期待、イベント希望は世代によって大きな差があります。これは、森林インストラクション活動においては世代を意識した対応が必要なことを示しています。

そこで、秋田市民を対象とした森林インストラクション活動における世代別の基本的な指標をアンケート調査の結果により整理してみました。(表9参照)

これは①参加者を把握した時点での普及目標の設定 ②参加者に呼応した資料の作成 ③一定の世代の参加者を集めるためのイベントメニューの検討等に活用出来ると考えます。

なお、「マナーの徹底」を敢えて全世代普及目標に入れているのは、「林業」や「森林へ人間が足を踏み入れること」を一般的に「悪」ととらえる傾向が強くなりつつある中では、特に声を大きくして徹底すべきことと考えたものです。

表9-森林インストラクション活動における世代別の基本的な指標

世代	参加者のニーズ	メニュー	普及目標
30才未満	・遊びの要素の強いもの	・キャンプ ・スキー等による森林浴	・森林、林業の基本的事項の理解 ・マナーの徹底
30代	・遊びの要素と学習の要素が混じったもの	・キャンプ ・自然観察会	
40代		・自然観察会 ・キャンプ	・森林、林業についての理解 ・国有林野事業への理解 ・マナーの徹底
50代	・学習の要素が強いもの	・自然観察会 ・登山	・国有林野事業への理解 ・マナーの徹底
60才以上		・自然観察会 ・体験林業	

※イベントのメニューはアンケートの回答の上位2つを記入

(2) 参加者の世代を意識したイベント企画(例: 仁別自然休養林)

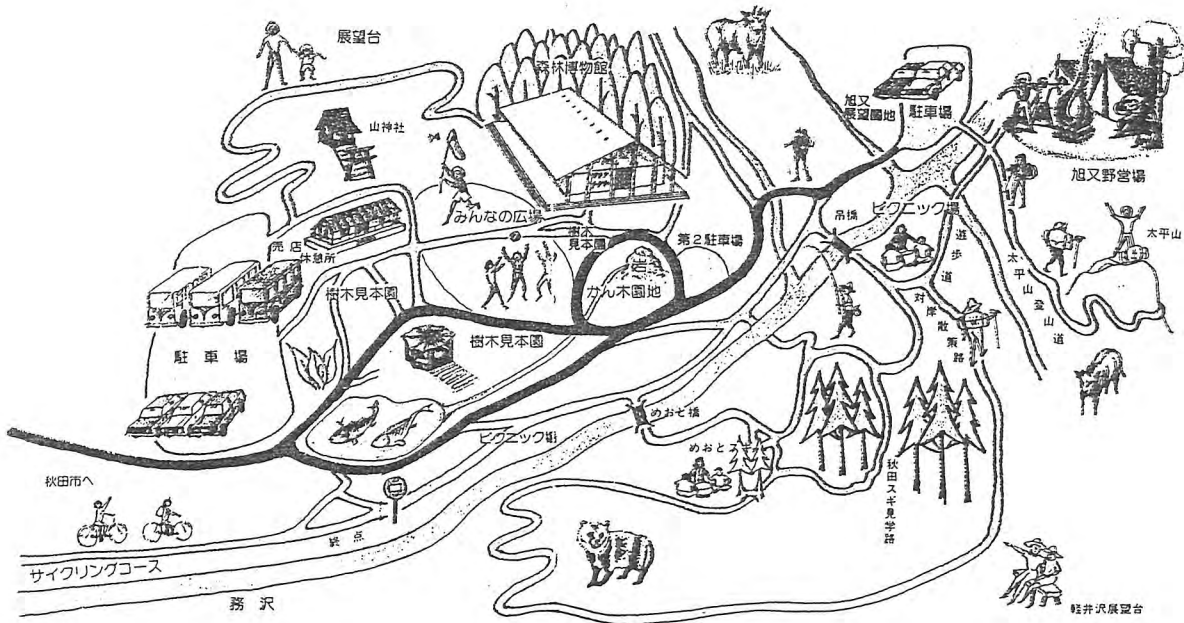
ア 若い世代を意識したもの

- ・イベント名: 「ザ ウォークラリー・チャンピオンシップ in 仁別」(グループ公募)
- ・概要: ウォークラリーを計画し、チェックポイントに工夫を凝らして森林に親しんでもらう。また、チェックポイントに絡め森林についての基本的事項をクイズ方式等でPRする。なお、旭又野営場でのキャンプでは野外炊飯を通して「木材の生産」も森林の重要な働きであることや「森林が水を育てていること」などについてPRするほか、野外ゲーム等で親睦を深めてもらう。

イ 年輩者を意識したもの

- ・ イベント名: 「ふるさと自然観賞会」
- ・ 概要: 散策路や樹木見本園での植物観賞と森林博物館の見学, さらに人工林や務沢天然林施業試験地を見学させることにより, 保健休養の場としての国有林の活用や森林施業についてPRする。

仁別自然休養林案内図



おわりに

今回はアンケートの結果から, 秋田市民を対象とした森林インストラクション活動について, その基本的な指標と企画について考察してみました。しかしながら, 普及目標とイベントのメニューを考慮した場合の場所の選定等, 具体的事項の検討までは至りませんでした。今後はさらに市民の声に耳をかたむけながら, 森林インストラクション活動のマニュアル作りに取り組んでいきたいと考えています。